



トピックス

平成30年度第2回目の「野生動物に学ぶ救護セミナー」を開催しました！

今回のテーマは、絶滅に最も近い種と言われている「シマフクロウ」。最初に環境省の職員から「シマフクロウの保護増殖事業の歩み」についての説明があり、その後「シマフクロウ環境研究会」代表の竹中健さんに「シマフクロウの生態と調査秘話」という題目で講演していただきました。苫小牧市や近隣の千歳市・恵庭市・札幌市をはじめ、遠く



セミナーの様子

羅臼町や富良野市、天塩町などから60名の参加者が集まりました。国や竹中さんの地道な保護増殖活動

によって個体数が少しずつ増加していること、今後さらに分布域を拡げていくためには、営巣のための直径1m以上の大木や餌となる魚が必要で、河川・森林環境の整備が重要であることを再認識させられる内容でした。なお行事終了後、参加者の皆さんには当センターオリジナルのしおりをプレゼントしました。



自然案内ボランティアを募集中

当センターでは、約20名のボランティアが登録し、主に傷病鳥獣の救護（現在は受け入れを休止中）や自然案内の分野で活動しています。

案内活動は、来館者への対応（望遠鏡で観察できる野鳥の解説等）、バードウォッチングをはじめとする各種イベントの運営スタッフ、来訪者に自然情報を提供するための調査など、内容も様々です。活動に関心のある方を対象として年に2回、募集説明会（または入門講座）を開催しており、今年も11月に、参加したおひとりが登録されました。

次の募集説明会は3月を予定。「自然案内、はじめの一步」、興味のある方は、まずはご参加ください。登録された後は活動のフォローアップとして、水鳥講座などの研修も行なっています。



館内で来館者に手ほどきするボランティアさん(右)



ミニツアーで自然案内を行なうボランティアさん(左)



ウォークラリーイベントの受付をするボランティアさん(右)



ハシブトガラ

【自然観察路情報】

2018年11月7日(水) 10:00~12:00

観察された生きもの

《野鳥》

ヒシクイ、マガン、コブハクチョウ、ダイサギ、トビ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラ
シジュウカラ、ヒヨドリ、キバシリ、ゴジュウカラ、マヒワ、種不明ハクチョウ類、種不明カモ類

《植物》

ユウゼンギク(花)、フッキソウ(つぼみ)、ズミ、マユミ、ツルウメモドキ、チョウセンゴミシ
ケヤマウコギ、イボタノキ、メギ、キハダ、ハンゴンソウ(以上、実やタネ)、ニシキギ(紅葉)
コナラ、ミズナラ(以上、落葉)、エゾニワトコ(冬芽)

《昆虫・その他》

アキアカネ、シマリス



マヒワ



キバシリ



ダイサギ



マユミ

【水鳥カウント調査結果】

2018年11月16日(金) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類 * ()内は個体数、(+)は「以上」、(±)は「前後」の意味

コブハクチョウ(5)、コハクチョウ(4)、オオハクチョウ(108)、ヨシガモ(16±)、ヒドリガモ(24±)
マガモ(141±)、カルガモ(1)、ホシハジロ(15+)、キンクロハジロ(16+)、スズガモ(1)
ホオジロガモ(2)、ウミアイサ(2)、カイツブリ(7)、カンムリカイツブリ(1)、ハジロカイツブリ(1)
ダイサギ(7)、オオバン(23)、トビ(1)、オジロワシ(3)、チュウビ(1)、カワセミ(1)、種不明ハクチョウ類(5)



オオバン



12月の自然予報

明るい林では、ハシブトガラやシジュウカラ、ゴジュウカラ、キバシリ、コゲラなどで構成された混群が見られるでしょう。話題のエナガ(亜種:シマエナガ)も観察しやすい時期です。

例年に比べ、冬鳥の小鳥は多くありません。年によっては大きな群れが見られるマヒワも同様です。寒くなるにつれ、移動して来るのを期待しましょう。

11月11日に今季初確認したオオワシが、対岸の木に止まっているかも知れません。



枝先に残るノリウツギの飾り花と実



ツルウメモドキの実とヒヨドリ



新雪の上に残るキタキツ木の足跡



オレンジ色のツルウメモドキや赤いマユミの実が枝に残っていますが、じきにヒヨドリなどに食べられてしまうでしょう。



冬眠しないエゾリスはハンノキなどの実を食べに来ます。運がよければ、観察できるでしょう。

見通しの良い自然観察路からは、野鳥やスズメバチの古巣が見つかるでしょう。意外なほど近くにあるので、驚かれるかも知れません。

【 テントウムシ 】

みな同じ「テントウムシ」という種ですが、背の色(赤や黒が多い)や斑紋(形や数)には様々なタイプがあり、中には斑紋のないものもいます。幼虫も成虫も主にアブラムシ類を食べます。成虫のまま冬を越し、建物の外壁の隅に集まっていることもあります。



*ウトナイ湖に関するクイズ

毎回、その月にあわせてテーマで出題している。あなたもウトナイ博士になれる?かも。

Q. 葉の落ちた林で、野鳥の古巣(写真)を発見しました。直径7~8cmほどで、クモの糸が使われており、枝からぶら下がっています。さて、この持ち主はだれでしょう。



(あ) メジロ

(い) コゲラ

(う) シジュウカラ



答えは最後のページにあるよ。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

クイナ

体重 122g



強制給餌の様子

2018年 10月 15日 噴れ 14:30

苫小牧市内の住宅地の草むらでうずくまっていたところを保護

10月15日 15:30 センターへ搬入。明らかな外傷は認められなかったが、衰弱が著しいため、保温・安静処置をし、一晩経過観察。

10月16日 全身状態がやや回復傾向にあるものの、自発採餌の兆候が見られないため、ミルワームを強制給餌。

10月17日 依然として自発採餌を認めず。体重がかなり減少したため、ぬるま湯で溶いたすり餌をチューブで強制給餌。

10月18日 すり餌を吐き戻した後、容体が急変し、夕方に死亡。

クイナ (ツル目クイナ科)

夏鳥として、繁殖のため北海道に渡来します。全道に分布しており、河川・湖沼・湿地周辺の農耕地や草地などで、昆虫や小魚、植物の種子などを食べます。ヨシの茎などを重ねた皿型の巣を作り、普段は湿地の草むらの中にあることが多く、滅多に姿を見せません。雌雄同色。

